

令和2年度 八洲学園大学事業計画書

1. 施設の概要

学校名	所有区分	郵便番号	学校(会場)所在地	電話番号	FAX番号
八洲学園大学	法人所有	220-0021	神奈川県横浜市西区桜木町7-42	045-313-5454	045-324-6961
八洲学園大学	法人所有	160-0022	東京都新宿区新宿2-12-12	-	-

2. 学生の概要

(1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧(令和2年3月1日時点)

設置学部	学科	入学定員 (人)	編入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③科目等 履修生数 (人)	④特修生数 (人)	収容率(%) ②÷①×100
生涯学習学部	生涯学習学科	800	400	4,000	1,750	920	18	43

(2) 令和2年度入学者数・卒業者数・退学者数・除籍者数予測一覧

学生区分	入学者数 (人)	編入学者数 (人)	卒業者数 (学位授与数) (人)	リカレント修了/終了者数 (人)	退学者数 (人)	除籍者数 (人)	増加予測人数 (人)
正科生	49	370	40	231(リカレント修了者)	49	0	99
科目等履修生	201	—	—	148(終了者)	12	0	41
特修生	1	—	—	—	1	0	0

※除籍は平成29年度まで実施なし、平成30年度～実施。

3. 教職員関係

(1) 令和2年度管理職の概要

職名	氏名	備考（新任・留任等）
学長	水戸部 優子	留任
事務局長	佐藤 明由美	留任（令和元年12月1日就任）
総務課長	林 正隆	新任
教務課長	佐藤 明由美	留任
総務課長補佐	—	—
教務課長補佐	佐藤 絢	留任（令和元年12月1日就任）
学生支援センター長・入学支援相談センター長	佐藤 絢	新任
キャリアコーディネーター室長	佐藤 絢	留任
広報室長	佐藤 絢	留任（令和元年12月1日就任）

(2) 令和2年度教職員の概要（令和2年4月1日時点）

	職位	合計（人）	平均年齢（歳）
教員	本務	21（学長を含む）	50.7
	兼務（非常勤講師）	52	51.3
職員	本務	6	36.0
	兼務	7	52.4

4. 事業の概要

(1) 事業の概要

令和元年度に続き、ウェブを中心とした広報により学生定員の確保に取り組む。「平成25～34年度八洲学園大学中長期計画」に基づく各取

り組みを推進する。また、平成 31 年度 4 月に全面移行した新 e ラーニング・システム「SOBA マナベル」「SOBA e-college」の改修を進め早期安定に努める。

＜達成目標＞

おおむね前年度比 110%を目標とする。ただし、公開講座は令和元年度に大きな収益を上げた防災士養成講座の規模縮小を踏まえた目標値とする。

- ・ 入学者数（科目等履修生を含む） 720 名
- ・ 学生生徒等学納金収入 194, 667, 000 円
- ・ 補助活動事業により計 31, 004, 600 円（公開講座 4, 400, 000 円、教員免許状更新講習 18, 904, 600 円、空き教室の貸出事業（時間貸し） 7, 700, 000 円）

（2）主な事業の目的・計画及びその進捗状況（「平成 25～34 年度八洲学園大学中長期計画」に基づく）

①生涯を通して主体的に学びを発信し続ける意欲をもった人材の育成

年度	事項	概要	進捗状況
31	カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程の編成	カリキュラム・ポリシーを整備し体系的な教育課程を編成する。	平成 25 年度に専門科目の科目群を新設。「教養系」を新設。 平成 27 年度にカリキュラム・ポリシー策定。 平成 28 年度に専門科目の「教養系」を「人間力創造系」に変更。科目群を新設。 平成 29 年度にカリキュラム・ポリシー改定。基礎科目の分類を廃止。 平成 29 年度～シラバス見直しを開始。 平成 30 年度に資格科目を廃止（専門科目に変更）。 令和元年度～プロジェクトチームを立ち上げカリキュラムマップ等の検討を開始。

31	ディプロマ・ポリシーに基づいた評価指標の明確化	ディプロマ・ポリシーを整備し評価指標を明確化する。	平成 27 年度にディプロマ・ポリシー策定。 平成 29 年度にディプロマ・ポリシー改定。 平成 30 年度に資格科目を廃止。 令和元年度～成績評価基準（GPA 制度等）導入を検討。 令和 2 年度～成績評価基準（GPA 制度等）導入。
31	多様な学習支援	e ラーニング・システムを活かした支援や学生支援センターによるきめ細やかな支援を実施する。	平成 25 年度に「学生支援センター説明・交流会」開始。 e ラーニング・システムの仕様改善により支援の自動化を推進。 令和元年度に「レポートの書き方ハンドブック」（旧「学習のしおり」）を作成（e ラーニング・システム上で提供）。 令和 2 年度～「学習のてびき」「レポートの書き方ハンドブック」を冊子化し新入生に配布。

②学生が意欲をもつ学びの場の構築

年度	事項	概要	進捗状況
31	アドミッション・ポリシーに基づいた学生の受入れ	アドミッション・ポリシーを整備し適切に学生を受け入れる。	平成 25 年度に西九州大学、東京未来大学と協定を結び司書教諭科目の履修生受入れを開始。 平成 26 年度に丸善株式会社と協定を結び司書科目の履修生受入れを開始。 平成 27 年度に株式会社ヴィアックス、株式会社図書館流通センターと協定を結び司書科目の履修生受入れを開始。 平成 29 年度にアドミッション・ポリシーを改定。 平成 30 年度の募集要項から他の 2 つのポリシーも明記。

31	学生の視点を育成に反映させる取り組み	学生の要望を科目の新設や教授法の開発に反映させる。	平成 25 年度に学生アンケート開始、要望等への対応状況をサイトに公開。 平成 27 年度に科目評価アンケート開始。 令和元年度に全学生対象のハラスメントアンケート実施。 令和元年度末に学生アンケート実施。
31	学生の成長を促す取り組み	科目の充実等により学生の成長を促す。	平成 27 年度に「初年次セミナー」ほか新設。 平成 29 年度に「レポートの書き方入門」ほか新設。 平成 30 年度に「学校図書館専門職養成プログラム」新設。 令和元年度に「図書館基礎特論」ほか新設。 令和 2 年度に社会福祉主事（任用）資格科目を中心に多数新設。

③時代の要請に応えた e ラーニングスタイルの提供

年度	事項	概要	進捗状況
31	e ラーニング・システムの機能を生かした教授法の開発	学生や教職員の意見等を反映し e ラーニング・システムの仕様改善を推進する。	平成 25 年度～e ラーニング・システム「eLY」の使用改善を推進。 令和元年度に新 e ラーニング・システム「SOBA マナベル」に全面移行。

31	FD の実施	FD を実施し e ラーニングスタイルの教育の能力を高める。	平成 25 年度 FD 研修会「今後の e ラーニング・システムの方向性について」等。 平成 26 年度 FD 研修会「テキスト履修科目課題レポートの添削指導について」等。 平成 27 年度 FD 研修会「著作権と教材について」等。 平成 28 年度 FD 研修「公開授業（授業参観）」開始。 平成 29 年度 FD 研修会「通信制大学におけるレポートの剽窃」。 平成 30 年度 FD 研修会「大学教育と通信教育」。 令和元年度は、SD・FD 合同研修会「ハラスメント防止」講演、「八洲学園大学のブランディング」ワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止（延期予定）。
30	SD の実施	SD を実施し e ラーニングスタイルの教育や学生支援の能力を高める。	平成 29 年度 SD 研修会「障害を持つ学生への対応」。 平成 30 年度 SD 研修会「大学はどのように評価されるか—前回受審の振り返りと新評価指標の確認」「精神障害、発達障害のある学生への対応」。 令和元年度は、SD・FD 合同研修会「ハラスメント防止」講演、「八洲学園大学のブランディング」ワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止（延期予定）。

④生涯学習社会の実現に向けての研究開発の推進

年度	事項	概要	進捗状況
31	カリキュラムの確認と再構築	生涯学習学社会の実現のために求められることを分析しカリキュラムを再構築する。	平成 27 年度にカリキュラム・ポリシー策定。 平成 29 年度にカリキュラム・ポリシー改定。 令和 2 年度～「学習のてびき」にもカリキュラム・ポリシーを明記し学生への周知を図る。

31	FDの実施	FDを実施し研究開発を推進する。	平成 25 年度 FD 研修会「4 学期制導入に伴う課題と対応策について」等。 平成 28 年度「学長講演（「本学の建学の精神、教育の理念について）」等。 平成 29 年度 FD 研修会「通信制大学におけるレポートの剽窃」。 平成 30 年度 FD 研修会「大学教育と通信教育」。 令和元年度は、SD・FD 合同研修会「ハラスメント防止」講演、「八洲学園大学のブランディング」ワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止（延期予定）。
31	研究紀要の発行	八洲学園大学紀要を発行し公表する。	平成 17 年度～紀要を発行、サイト上に公開。 令和元年度に JAIRO Cloud 導入。また、データ版の発行のみだった号を冊子化し国立国会図書館等に寄贈。

⑤グローバル化に対応した学習の提供

年度	事項	概要	進捗状況
31	多様なインターネット環境に対応した学習システムの構築	現行システムの弱点を補う新システムを開発する。	平成 27 年度に SOBA LMS system を公開講座に導入。 平成 28 年度に SOBA LMS system を教員免許状更新講習に導入。 令和元年度に新 e ラーニング・システム「SOBA マナベル」に全面移行。
30	公開講座の新設	グローバル化に対応した公開講座を新設する。	平成 30 年度～図書館における多文化サービスに関する講座の開設を検討。 令和元年度に「司書対象「英語よみきかせ」のための選書」開講。
30	科目群の整備	グローバル化に対応した科目群を整備する。	平成 30 年度～外国語教育の科目等を検討開始予定。

⑥キャリア形成や就職・転職支援の実施

年度	事項	概要	進捗状況
31	就職・転職支援の充実	キャリアコーディネーター室による支援を行う。	平成24年度にキャリアコーディネーター室を設置。 平成29年度より正科生に特化した支援を開始。
31	科目群の整備	キャリア教育科目を整備する。	平成25年度に専門科目「キャリア教育」(科目群)を新設。 平成29年度にキャリア教育担当の専任教員を採用。
31	公開講座の新設	キャリア形成に役立つ公開講座を新設する。	平成26年度に「開放授業」開始。 平成27年度～図書館司書向け講座の開設を推進。 令和元年度に防災士養成講座開講、TOEIC対策講座企画(未開講)。

⑦広く社会や地域に貢献

年度	事項	概要	進捗状況
30	神奈川県や横浜市との連携	神奈川県や横浜市主催イベント等に参加し地域に貢献する。	平成25年度に一般社団法人横浜みなとみらい21と連携を開始。 平成25年度「ヨコハマ大学まつり」講座開講。 平成26年度「ヨコハマ大学まつり」講座開講。 平成29年度「にしくらぶ」講座開講。 平成30年度「にしくらぶ」講座開講。 令和元年度「にしくらぶ」は災害等の影響により中止。
30	各地域での社会貢献	公開講座をeラーニングで提供し社会に貢献する。	平成25年度より卒業生による公開講座を開講。 平成27年度より図書館司書向け講座を開講。 平成28年度より八洲学園大学国際高等学校との提携を開始。 平成28年度より株式会社キャリアパワーとの提携を開始。 令和元年度に新eラーニング・システム「SOBAe-college」に全面移行。 令和元年度に防災士養成講座を開講。

30	大学施設・整備の開放	大学施設・整備を一般に開放し地域に貢献する。	平成 23 年度より空き教室の貸出事業開始。 平成 25 年度より附属図書館を一般開放。
----	------------	------------------------	---

(3) 施設・設備の整備計画

横浜ビルの老朽化（築 31 年）に伴う修繕等（非常放送制御盤交換工事、貯水槽内電極棒交換工事）を行う。空調・照明設備は、補助金申請諸費用の捻出が難しいことから、入学者数や学納金収入状況に応じて、建物外壁調査や外壁工事費等を検討していく。

(4) 授業料変更等

学費に「演習・実習料」1 単位あたり 1,000～20,000 円を追加設定する。

(5) 卒業者数、就業者数、学位授与数の見込み ※卒業者数、学位授与数は 2（2）参照。

学生区分	就業者数（在学時からの就業者も含む）（人）
正科生	948
科目等履修生	502

(6) 学生の就職、進学状況

平成 24 年度後半より「キャリアコーディネート室」を設置し、就転職を希望する在学生・卒業生へ就転職セミナーの実施や、メールでの定期的な就職情報配信を行っている。令和元年度はキャリアコーディネート室の支援により 26 名（科目等履修生を含む）の就転職が決定した（3 月 1 日時点）。大半が社会人学生であることから、既に就職している者も多く必ずしも卒業と同時に就転職を希望するとは限らないが、「キャリアコーディネート室」の活動が広報に結びつき、入学促進にもつながっている。

また、令和 2 年度から新たに 1 社と図書館司書資格科目の履修に関する協定の締結を検討している（提携企業は計 5 社となる予定）。

(7) 教職員の採用・退職計画

職位			令和元年度退職（人）	令和 2 年度採用等（人）
教	本務	特任教授	0	2

員	教授	0	-2
	准教授	0	0
	講師	0	2
	兼務（非常勤講師）	3	5
職員	本務	1	2
	兼務	1	0

※教員（本務）には学長を含まない。

（8）今後の課題

入学者数・履修者数ともに増加しているが、依然として定員充足率は50%を下回っているおり（科目等履修生を含めると約67%）、正科生（1年次入学）及び正科生（学士取得編入学）の確保が課題である。

また、令和元年度にeラーニング・システムを「SOBA マナベル」に全面移行したが、まだ不具合の改修が続いている。旧システムと比較すると、スクーリング受講設定が不要となった等、学生側の操作性は向上したと言えるが、教職員側の機能は低下した点も多く、改善すべき点は山積みである。「SOBA マナベル」の早期安定を諮り、eラーニングスタイルの通信制大学の競争が激しくなりつつある状況を踏まえた対策が必要である。

5. 財務の概要

前回の認証評価で指摘を受けた財務状況の改善が引き続き最重要課題であり、当初予算を実現するため、収入と支出のバランスを注意深くチェックしながらコスト削減と各分野の収入増を同時に推進していく。また、築後31年になる八洲学園大学本館を維持するため、大規模修繕の計画およびその原資となる修繕積立金の計上も今後の課題である。